

# YAMAHA

# AX-390

## NATURAL SOUND STEREO AMPLIFIER

## 取扱説明書

このたびは、ヤマハステレオプリメインアンプ AX-390 をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。

AX-390 の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくためにも、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。

お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管してください。

ご使用前に必ずお読みください

### 保証書の手続きを

お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きを行ってください。保証書に販売店名、購入日などの記入がありませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくことがありますので、充分ご注意ください。



これは電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです。  
音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

### 目次

安全上のご注意 .....	2
各部の名称とはたらき .....	4
接続のしかた .....	6
操作のしかた(再生) .....	8
操作のしかた(録音) .....	9
タイマー再生/録音のしかた .....	9
リモコンについて .....	10
参考仕様 .....	10
故障かなと思ったら .....	11
ヤマハホットラインサービスネットワーク .....	12

### 特長

コンティニアスラウドネスコントロール装備  
聴いている音量レベルに応じて補正量を連続的に可変することができるラウドネスコントロールを装備しています。

CD ダイレクトアンプスイッチ搭載  
コンパクトディスクのハイクオリティなサウンドを、より劣化の少ないピュアな音で楽しんでいただくため、CDプレーヤーとパワーアンプ部をプリアンプのみで直結するCD ダイレクトアンプスイッチを装備しています。

集中操作に便利な多機能リモコン  
本機の操作はもちろん、本機に接続した他の周辺ヤマハ機器にも対応できる多機能リモコンを付属しています。

# 安全上のご注意 (安全に正しくお使いいただくために)

ご使用の前に必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みになり、正しくお使いください。またお読みになったあと、いつでも見られる所に必ず保存してください。

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。



## 警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

設置される時		使用中に異常が発生した時	
<p>本機に水が入ったり、ぬらさないようご注意ください。火災・感電の原因となります。表示された電源電圧交流100V以外の電圧で 사용하지 しないでください。火災・感電の原因となります。本機を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。火災の原因となります。電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。</p>	<p>電源コードが傷んだら(芯線の露出、断線など)販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。</p>	<p>万一機器の内部に水や異物が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。</p>	<p>万一、本機を落としたり、キャビネットを損傷した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。</p>
ご使用になるとき		<p>絵表示の例</p> <p>指を挟まれないよう注意</p> <p>記号は注意(危険・警告を含む)を促す内容があることを告げるものです。</p> <p>分解禁止</p> <p>記号は禁止の行為であることを告げるものです。</p> <p>記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。</p>	
<p>本機の上に水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合火災・感電の原因となります。本機の通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落し込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。</p>			
<p>本機のキャビネットは絶対に外さないでください。感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。本機を改造しないでください。火災・感電の原因となります。</p>			



# 注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

設置されるとき		ご使用になるとき	
	<p>湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。</p> <p>ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。</p> <p>電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。</p> <p>直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。</p> <p>濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。</p> <p>電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがありますので、次の点にご注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本機を押し入れ、本箱など風通しの悪い狭い所に押し込まないでください。</li> <li>・テーブルクロスを掛けたり、じゅうたんや、布団の上に置かないでください。</li> </ul>	<p>接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。電源を入れる前には音量（ボリューム）を最小にしてください。突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。</p> <p>付属のリモコンに電池を挿入する場合、極性表示（プラス⊕とマイナス⊖の向き）に注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。</p>	
		<p>指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。</p>	
		<p>旅行などで長期間、本機をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。</p>	
		<p style="text-align: center;"><b>お手入れについて</b></p>	
	<p>本機を設置する場合は、間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から5cm以上、背面から10cm以上のすきまを開けてください。</p>	<p>1年に一度くらいは内部の掃除を販売店にご相談ください。本機の内部にほこりのたまったまま、長い間掃除しないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店にご相談ください。</p>	
	<p>移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。</p>	<p>お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。</p>	

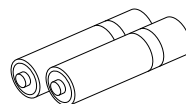
# ご使用の前に

付属品を確認してください

リモコン

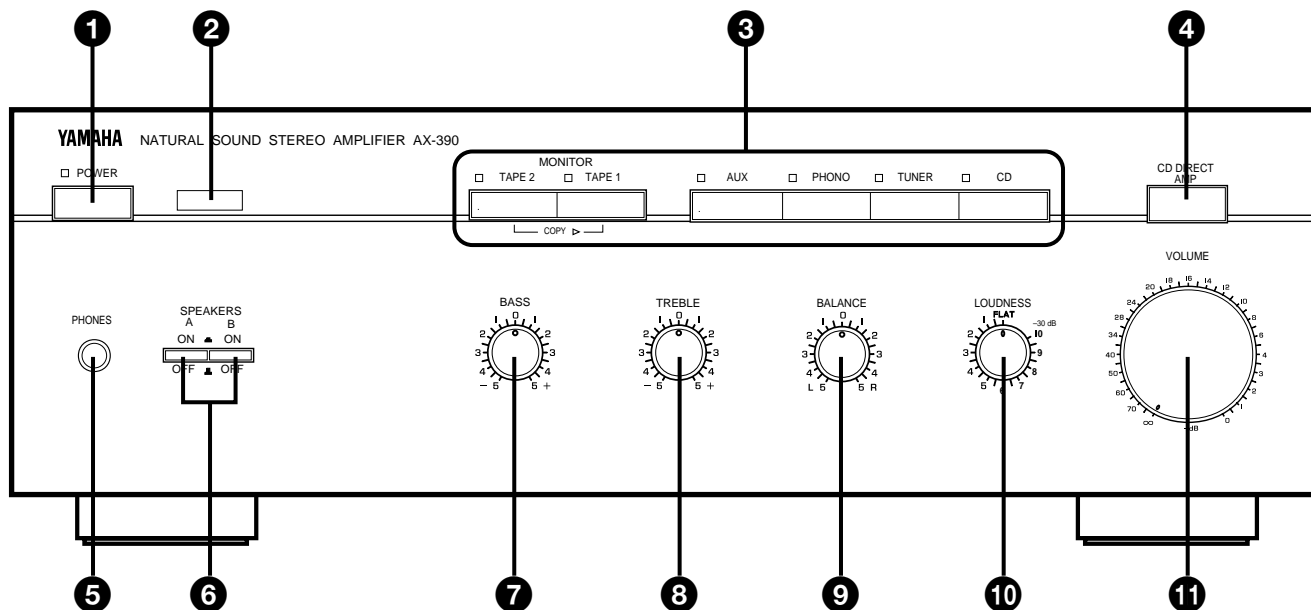


単三乾電池（2本）

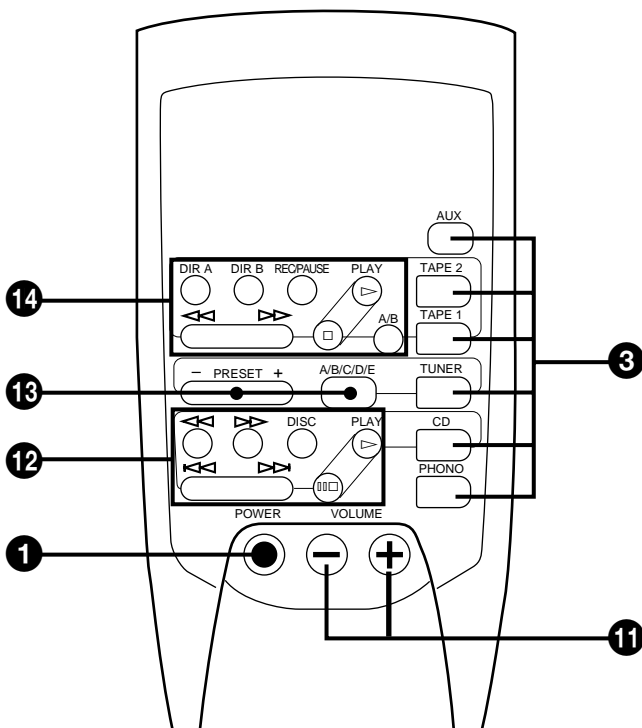


## 各部の名称とはたらき

### フロントパネル



### リモコン



- 1** 電源スイッチ (POWER)  
 本機の電源を入/切します。電源が入るとインジケーターが点灯します。  
 電源を入れるときは、ボリュームコントロールを必ず最小の位置 ( ) においてください。  
 電源を入れてから数秒間は、スピーカー保護回路がはたらき、音は出ません。
- 2** リモコン受光部  
 付属のリモコンからの信号を受ける窓です。
- 3** インプットセレクター  
 再生したいプログラムソースを選択するスイッチです。押すと選択したプログラムソースのインジケーターが点灯します。  
 AUX: ビデオデッキ・レーザーディスクプレーヤーなど AUX端子に接続した機器の音を再生するとき。  
 PHONO: レコードプレーヤーを再生するとき。  
 TUNER: チューナー (FM/AM) を再生するとき。  
 CD: CDプレーヤーを再生するとき。  
 テープモニタースイッチ  
 テープデッキ1または2を選択するスイッチです。押すと選択したテープデッキのインジケーターが点灯し、もう一度押すとインジケーターが消え、解除されます。  
 TAPE 1: TAPE 1 端子に接続したテープデッキを再生するとき。  
 TAPE 2: TAPE 2 端子に接続したテープデッキを再生するとき。
- 4** CD ダイレクトアンプスイッチ (CD DIRECT AMP)  
 このスイッチを押すと、インプットセレクターの選択に関係なくCDが優先され再生されます。もう一度押すと解除されます。  
 信号経路はバス、トレブル、バランス、ラウドネスなどの回路がパスされ、極めてシンプルな回路構成となるため、よりハイクオリティな、CDサウンドがお楽しみいただけます。





# 接続のしかた

接続の際は、本機および接続する機器の電源を必ず“OFF”にしてから行ってください。

接続する機器によっては端子名が異なることがあります。

接続する機器の取扱説明書もあわせてご参照ください。

入・出力端子を接続する場合、市販のピンプラグコードをご用意ください。

接続するときは、各機器の L (左チャンネル)、R (右チャンネル)を確認し、また、スピーカー接続の場合は、極性 (+、-) を間違えないよう確認して、確実に接続してください。

本機をヤマハオーディオ機器 (CDX-490、TX-480、KX-690 など) と接続する場合は、各機器と本機と同じ番号のついた端子を接続してください。[端子番号は今後発売されるヤマハオーディオ機器 (CD、カセット、チューナー、コンボなど) にも表示される予定です。]

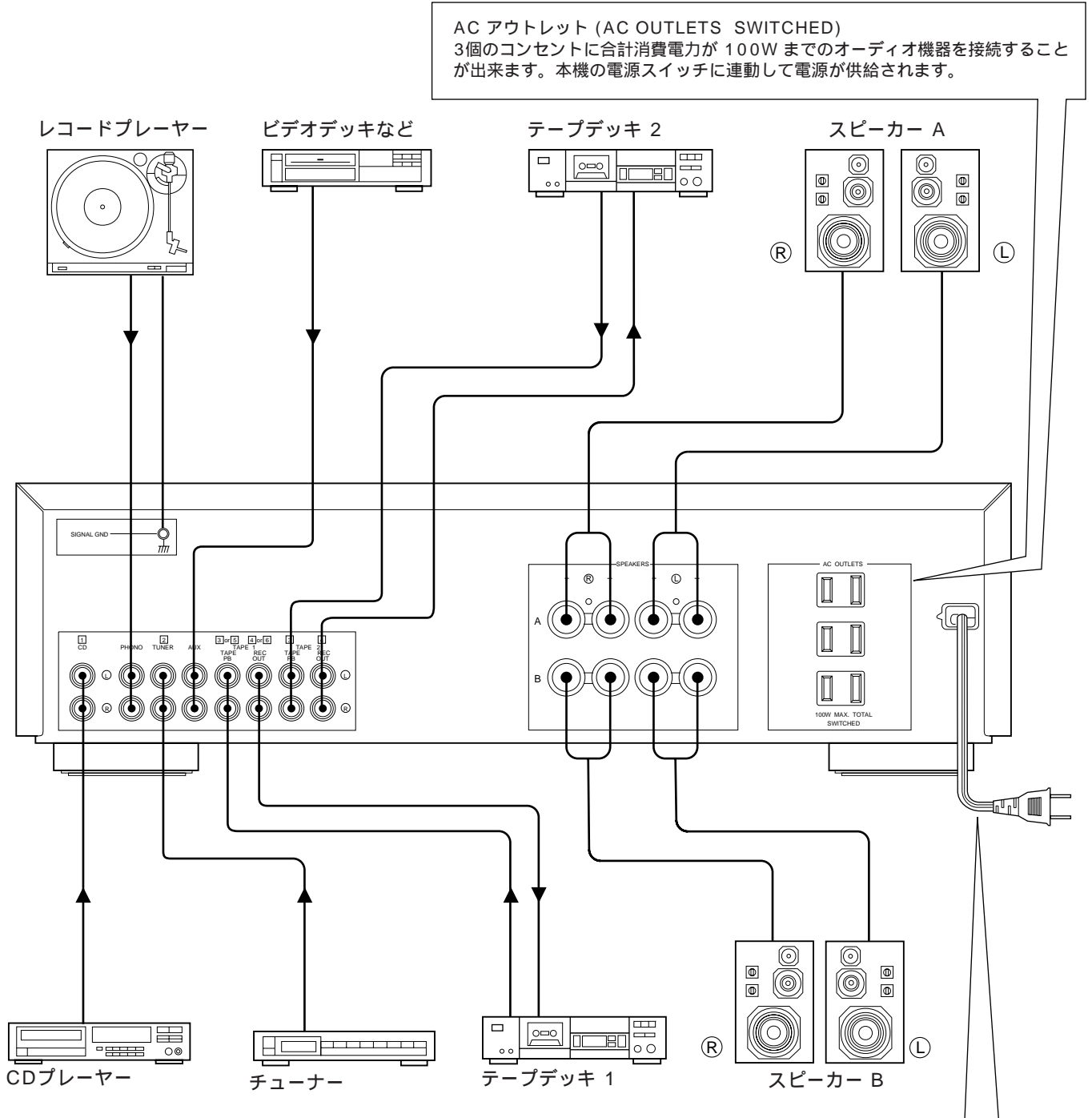
接続に誤りが無いことを確認してから、本機の電源コードを AC コンセントに接続してください。

本機が他の機器 (テレビ、チューナー) などに影響を与えるようなときは、本機とその機器を影響の出ない距離まで離してください。

## ご注意

テープデッキを接続している場合、テープデッキの電源を切ると本機の音が歪むことがあります。本機の電源を入れている時は、常にテープデッキの電源も入れてください。

本機の電源を切った状態で、接続した外部機器の音をモニターまたは録音すると、音が歪むことがあります。本機の電源を入れた状態でご使用ください。



## 電源コード

電源プラグは AC100V の家庭用コンセントに接続してください。

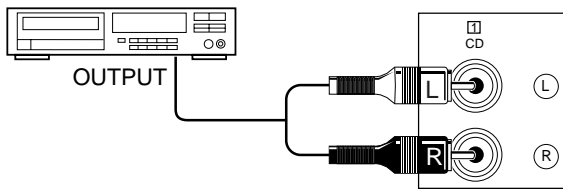
本機の消費電力は 120W です。

本機の電源コードには、極性表示 (電源トランスの巻き始め側を電源コードに白いラインで表示) がされています。極性を差し替えて音質が変わるようでしたら、お好みの極性でお使いください。

## CDプレーヤー、チューナー、その他ビデオデッキなどの接続

CDプレーヤーは CD 端子に、チューナーは TUNER 端子に、その他ビデオデッキなどの音声出力を AUX 端子に、それぞれ L, R を正しく確実に接続します。

### CDプレーヤー

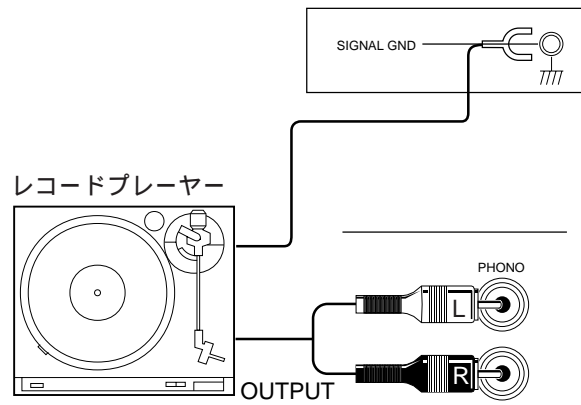


## レコードプレーヤーの接続

レコードプレーヤー（MMカートリッジ、または高出力MCカートリッジ付）の出力コードを PHONO 端子 L, R にしっかり差し込んでください。アース線は GND 端子に確実に接続します。

低出力型MCカートリッジ付のレコードプレーヤーを接続する場合は、昇圧トランス、またはMCヘッドアンプを使用してPHONO端子に接続してください。

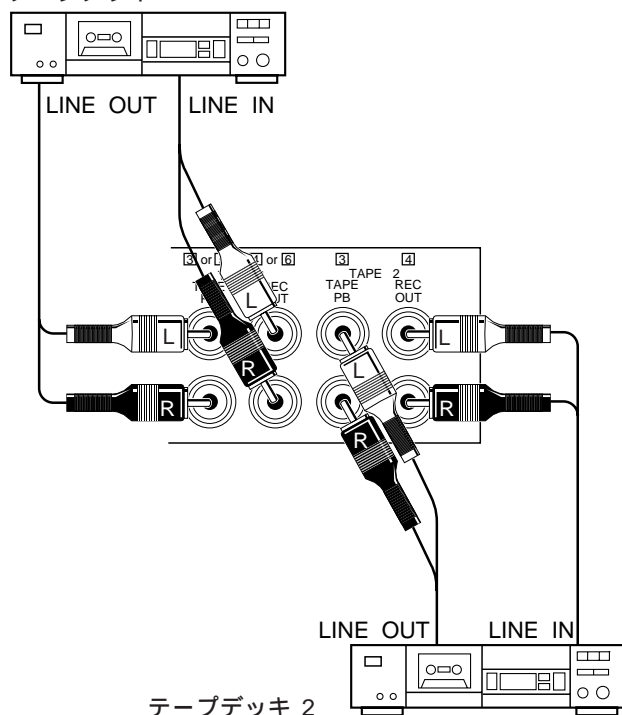
SIGNAL GND 端子は安全アースではありません。アナログレコーダーなどを接続した場合の雑音を低減するものです。（レコーダーによっては、まれにアース線を GND 端子に接続しない方がハムノイズが減少する場合があります。）



## テープデッキの接続

デッキの LINE OUT (PLAY) 端子と本機の TAPE PB 端子を、デッキの LINE IN (REC) 端子と本機の REC OUT 端子をそれぞれ L, R を正しく接続します。本機では、TAPE 1、TAPE 2 端子にテープデッキが2台まで接続できます。

### テープデッキ 1



テープデッキ 2

## スピーカーコードの接続

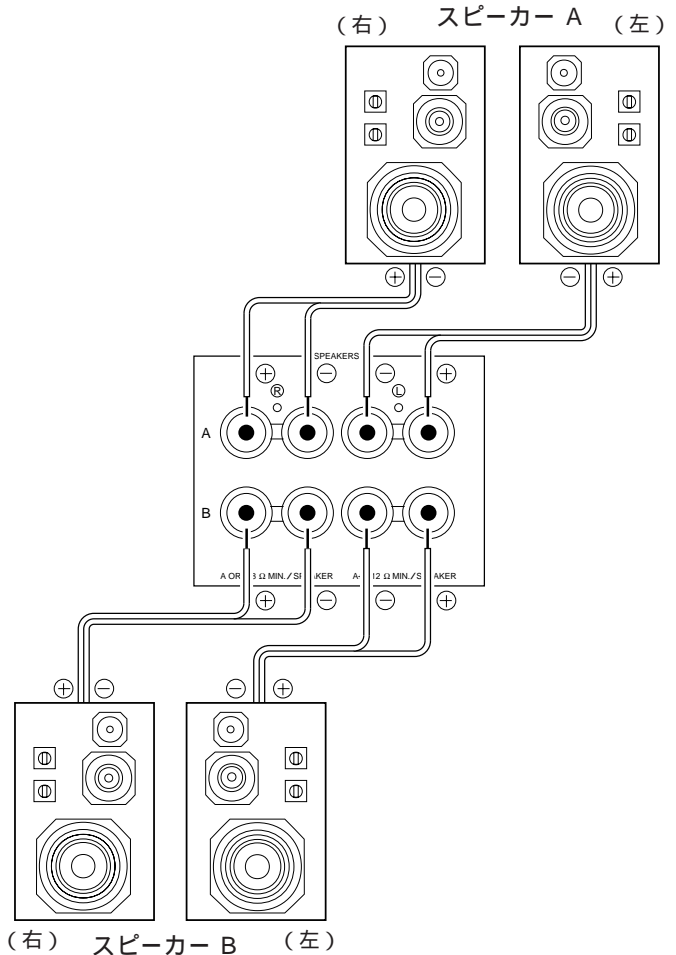
SPEAKERS A の R 側端子に右側スピーカーを、L 側端子に左側スピーカーを接続します。

アンプ側の + 端子からスピーカーの + 端子へ、アンプ側の - 端子からスピーカーの - 端子へ極性を間違いないよう確認して、スピーカーコードを接続します。

左右の接続や極性を間違えると、音が中央に定位せず、ステレオ感のない低音のそこなわれた不自然な再生音となります。

SPEAKERS B にも、SPEAKERS A と同様にもう一組のスピーカーを接続することができます。

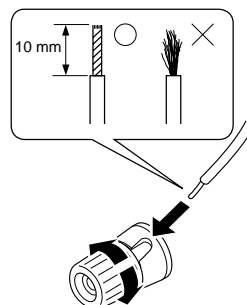
スピーカー A, B 単独使用の場合は、インピーダンスが 6 以上のものを、2 組同時使用の場合は、各インピーダンスが 12 以上のものを使用してください。それ以下のインピーダンスのスピーカーを使用すると、本機が故障するおそれがあります。



(右) スピーカー B (左)

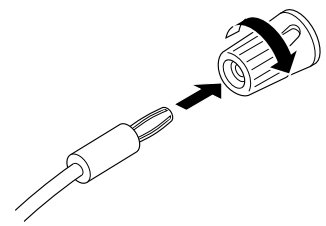
### スピーカーコードの接続

スピーカーコードの先端の絶縁部を 10 mm 位はがしてください。芯線がバラけてショートしないよう、指でしっかりよじってから、スピーカー端子の穴に差し込み、締めつけてください。また芯線部分が穴からはみ出していないかどうかを確認してください。

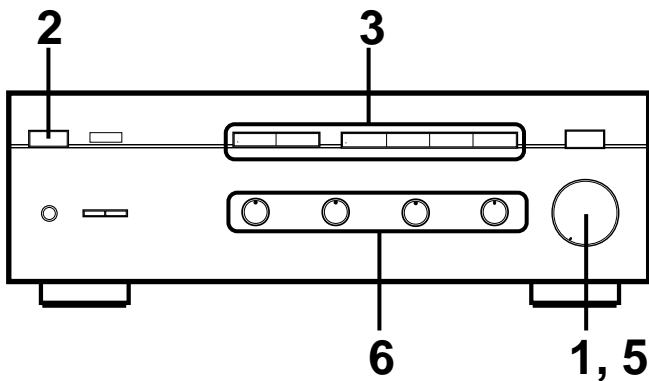


### バナナプラグの場合

バナナプラグを使用する場合は、端子を強くしめてから差し込んでください。

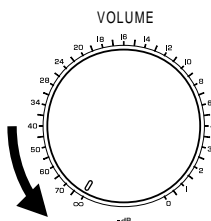


## 操作のしかた (再生)

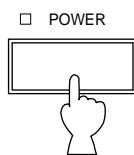


### 再生をする場合

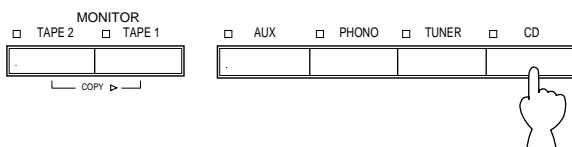
- 1** 本機のボリュームコントロールを“ ” (最小) に合わせます。



- 2** 本機ならびに、各機器の電源を“ON”にします。



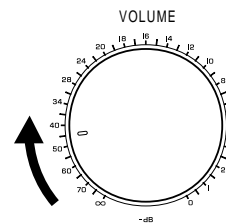
- 3** インプットセクターで、再生したいプログラムソースの選択をします。



選択されたプログラムソースのインジケータが点灯します。

- 4** インプットセクターで選択したプログラムソースの再生をします。

- 5** ボリュームコントロールで音量の調節をおこないます。



- 6** お好みに応じて、バス、トレブル、バランス、ラウドネスを使って音質調節をしてください。

### インプットセクターの使用 (手順 3) について

AUX、TUNER、CD、またはPHONO を選択するときは、TAPE 1 と TAPE 2 のインジケータが消灯するように TAPE 1 と TAPE 2 のスイッチを押してください。TAPE 1 と TAPE 2 のインジケータが同時に点灯した状態では、TAPE 1 が再生されます。

### ご注意

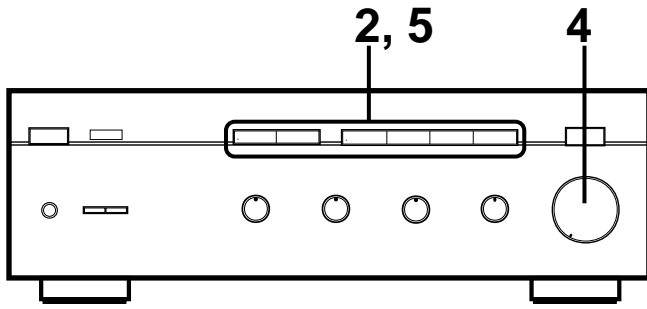
ラウドネスを設定したまま、CD ダイレクトアンプスイッチを押しますと、急激に大音量になることがあります。スイッチを押すときは、事前にボリュームコントロールを左に回し、音量を下げてください。

### メモリーバックアップについて

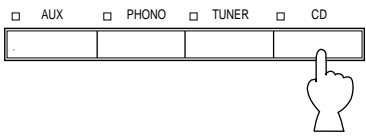
本機の電源を切っても、インプットセクターの状態はメモリー (記憶) されています。約2週間は電源コードをコンセントから外しても、メモリーはそのまま記憶されています。ただし2週間を過ぎると、コンデンサーが放電し、メモリーが消去されることがあります。メモリーが消去されるとインプットセクターはCDになりますので、再度選択してください。電源コードをコンセントに接続し、電源が供給されている場合は、電源スイッチを切ってもメモリーは常にバックアップされています。バックアップ用コンデンサーが完全に放電した場合は、電源コードをコンセントに接続すると約1時間でコンデンサーの充電が完了します。



## 操作のしかた (録音)



### 録音をする場合

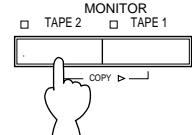
- 1 P. 8「再生をする場合」の、手順 1, 2 と同じ操作をします。
- 2 録音したいプログラムソースを、インプットセクターで選択します。  


AUX、PHONO、TUNERまたはCDの音をテープデッキ1とテープデッキ2に録音することができます。
- 3 テープデッキを操作して録音を開始すると同時に、録音するプログラムソースの再生をスタートします。
- 4 プログラムソースが正しく再生されているかどうかをボリュームをあげて確認します。
- 5 録音をモニターする場合は、録音しているテープデッキをテープモニタースイッチでえらびます。

上記の操作中、ボリューム、バス、トレブル、バランス、ラウドネス、CDダイレクトアンプの設定や調節をしても、録音には影響ありません。

### テープダビングをする場合

ダビングはデッキ 2 (TAPE 2) からデッキ 1 (TAPE 1) のみできます。  
(デッキ 1 からデッキ 2 へのダビングはできません。)  
デッキ 1 はリアパネルの TAPE 1 端子に接続されたテープデッキ、デッキ 2 はリアパネルの TAPE 2 端子に接続されたテープデッキです。

- 1 P. 8「再生をする場合」の、手順 1, 2 と同じ操作をします。
- 2 テープモニタースイッチで TAPE 2 を選択します。  

- 3 テープデッキ 1 を操作して録音を開始すると同時に、テープデッキ 2 の再生をスタートします。
- 4 テープデッキ 2 が正しく再生されているかどうかを、ボリュームをあげて確認します。
- 5 録音をモニターする場合は、テープデッキ 1 をテープモニタースイッチでえらびます。

上記の操作中、ボリューム、バス、トレブル、バランス、ラウドネス、CDダイレクトアンプの設定や調節をしても、録音には影響ありません。

## タイマー再生 / 録音のしかた

本機を市販のオーディオタイマーと組み合わせることにより、タイマー再生 / 録音をすることができます。

### 接続のしかた

- 1 本機の電源プラグをオーディオタイマーに接続します。
- 2 本機のACアウトレットにタイマー再生 / 録音する機器の電源プラグを接続します。[このとき、本機に接続する機器の消費電力が、ACアウトレットの供給電力(100 W)を越えないようにご注意ください。]

### 操作のしかた

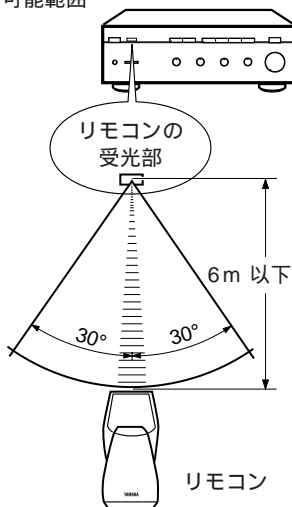
- 1 すべての機器の電源を "ON" にします。
- 2 本機のインプットセクターで、タイマー再生 / 録音する機器をえらびます。
- 3 本機のボリュームを適当な音量に調整します。  
タイマー録音の音声を聞く必要がない場合は、ボリュームを絞ります。
- 4 タイマー再生 / 録音の開始時間 (必要ならば終了時間も) をオーディオタイマーでセットします。セットした時間になると、タイマー再生 / 録音が始まります。

タイマー再生 / 録音する際、タイマーの操作や、再生 / 録音する機器の操作・設定についてはそれぞれの取扱説明書を参照してください。

# リモコンについて

リモコン信号は直進性の強い赤外線を使っています。リモコンと本体受光部の間に遮蔽物が入らないよう、また、本体の受光部を覆ったりしないようご注意ください。

リモコン操作可能範囲



付属のリモコンは...

本機専用です。近くに他の機器が設置されていると、誤動作を起こすことがあります。リモコンによって誤動作をする機器があるときは、その機器の受光部をふさぐか、設置場所を変えてください。

ていねいに扱ってください

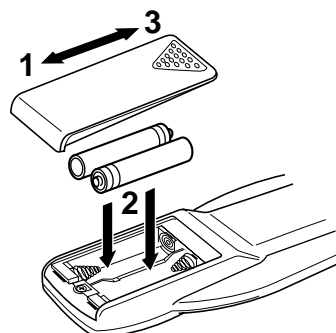
お茶や水をこぼしたり、落としたりしないでください。ストーブのそばや風呂場など、温度・湿度の高いところ、また、ほこりの多いところ、極端に寒いところにも置かないようご注意ください。

リモコン受光部に、直射日光や照明器具（インバータ蛍光灯など）の強い光が当たらないようご注意ください

強い光が当たっていると、リモコンが動作しなかったり、動きにくくなります。

電池交換のしかた

- 1 リモコンの裏のふたをはずします。
- 2 単3型(SUM-3)乾電池を2個、プラス(+)とマイナス(-)の向きを、リモコンのケースの表示どおりに正しく入れてください。
- 3 電池をセットしましたらカチッと音がするまでふたを閉めます。



電池交換の時期は？

リモコン操作できる距離が短くなってきたら電池が消耗しています。このときは、2本とも新しい電池に交換してください。

乾電池についてのご注意

- ・ 単3乾電池をご使用ください。
- ・ 新しい電池と、一度使用したものを混ぜて使用しないでください。
- ・ 種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- ・ 電池のプラス(+)とマイナス(-)を金属片で直接つなぐこと(ショート)はしないでください。
- ・ 長い間リモコンを使わないときは、電池を取り出しておいてください。
- ・ 万一液もれが起こったときは、電池入れについた液をよく拭き取ってから、新しい電池を入れてください。

## 参考仕様

定格出力

8 (20 Hz ~ 20 kHz, 0.04% THD) ..... 60W+60W

6 (20 Hz ~ 20 kHz, 0.06% THD) ..... 65W+65W

ダイナミックパワー (IHF ダイナミックヘッドルーム測定による)

(8 / 6 / 4 / 2) ..... 80W/95W/115W/125W

ダンピングファクター (20 Hz ~ 20 kHz, 8 ) ..... 100 以上

入力感度/入力インピーダンス

PHONO MM ..... 2.5 mV/47 k

CD/TUNER/TAPE/AUX ..... 150 mV/47 k

最大許容入力 (1 kHz, 0.04% THD)

PHONO MM ..... 90 mV

ヘッドホン出力/出力インピーダンス

0.04% THD, RL=8 ..... 0.42V/390

周波数特性 (20 Hz ~ 20 kHz)

CD/TUNER/TAPE/AUX ..... 0 ± 0.5 dB

RIAA 偏差 (20 Hz ~ 20 kHz)

PHONO MM ..... 0 ± 0.5 dB

全高調波歪率 (20 Hz ~ 20 kHz)

PHONO MM REC OUT (1V) ..... 0.02%

CD/TUNER/TAPE/AUX SP OUT (30W/8 ) ..... 0.02%

SN 比 (IHF A ネットワーク、入力ショート時)

PHONO MM (5 mV) ..... 82 dB

CD/TUNER/TAPE/AUX ..... 102 dB

CDダイレクトアンプオン時 ..... 108 dB

残留ノイズ (IHF A ネットワーク)

CD/TUNER/TAPE/AUX ..... 140 μV

CDダイレクトアンプオン時 ..... 50 μV

チャンネルセパレーション (VOL - 30 dB, 1kHz)

PHONO MM (入力ショート時) ..... 65 dB

CD/TUNER/TAPE/AUX (5.1 k ) ..... 60 dB

トーンコントロール

BASS ..... 可変幅、±10 dB (20 Hz)

ターンオーバー周波数、350 Hz

TREBLE ..... 可変幅、±10 dB (20 kHz)

ターンオーバー周波数、3.5 kHz

コンティニューアスラウドネスコントロール

最大補正量 (聴感補正カーブによる) ..... -30 dB (1 kHz)

定格電源電圧、周波数 ..... AC 100V, 50/60 Hz

消費電力 ..... 120W

AC アウトレット (連動) × 3 ..... トータル 100W MAX

外形寸法 (W × H × D) ..... 435 × 146 × 309 mm

重量 ..... 7.3 kg

付属品 ..... リモコン

単3乾電池 2本

参考仕様および外観は予告なく変更されることがございます。

本機は、電気用品取締法に定める技術基準に適合しています。

## 故障かなと思ったら

本機をご使用中に正常に動作しなくなったときは、下記の事項をご確認ください。そのうえで正常に動作しない、あるいは下記以外で何か異常が認められました場合は、本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点宛、お問い合わせ、サービスをご依頼ください。

本機使用中に、強い外来ノイズ（落雷・過大な静電気など）を受けた場合や誤った操作をした場合などは、本機が正常に動作しないことがあります。このような場合は、電源を切った後で電源コードを抜き、約30秒後に再び接続して操作してください。

どんな状態ですか	ここをチェックしてください	こうすればOKです
電源スイッチを押しても電源が入らない	電源プラグの接続が不完全	電源プラグをコンセントにしっかり差し込みなおしてください
音が出ない	ボリュームが絞られている	本体のボリュームコントロールまたはリモコンのボリュームキーで音量を上げます
	再生したいプログラムソースのインプットセレクターが正しく選択されていない	再生したいプログラムソースのインプットセレクターを選択してください
	スピーカースイッチが OFF になっている	スピーカースイッチでスピーカーが接続されている端子を選択してください
	接続が不完全	接続を確認してください
インプットセレクターを切り換えても CD 以外の音は出ない	CD ダイレクトアンプスイッチが ON になっている	CD ダイレクトアンプスイッチを押し解除してください
片チャンネルの音がでない	バランスコントロールツマミがどちらか一方に回し切られている	バランスコントロールツマミで左右の音量バランスを調整してください
	接続が不完全	接続を確認してください
低音のない不自然な再生音で、音像が安定しない	アンプとスピーカーの接続で L と R や極性 (+, -) が合っていない	アンプとスピーカーの L と R や極性 (+, -) を正しく接続しなおしてください
ハム音ができる	ピンプラグコードの接続が不完全	ピンプラグをしっかりと差し込みなおしてください
	レコードプレーヤーのアースコードを接続していない	アースコードを本機の GND 端子に接続してください
ボリュームコントロールを回しても音量があまり上がらない	ラウドネスコントロールがはたらいっている	ラウドネスコントロールツマミを FLAT の位置にセットしてください
ボリュームコントロールを回しても音量があまり上がらなかったり音がはずんだりする。	本機の REC OUT 端子に接続された機器の電源が OFF になっている。	本機の REC OUT 端子に接続された機器の電源を ON にしてください。
CD 演奏しているときバスコントロールツマミ、トレブルコントロールツマミがはたらかない	CD ダイレクトアンプスイッチが ON になっている	CD ダイレクトアンプスイッチを押し OFF にしてください
リモコン操作ができない	乾電池が消耗している	乾電池を 2 本とも交換してください
	リモコンの操作距離、角度が不適当	本体のリモコン受光部に対して 6m 以内、角度 30 度以内の範囲で操作してください
	リモコン受光部に強い日光や照明（インバータ蛍光灯など）が当たっている	受光部に強い光が当たらないように置き場所や方向、または照明の位置をくふうしてください

# ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただけるためのものです。  
サービスのご依頼、お問い合わせは、お買上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

## 保証期間

お買上げ日より1年間です。

## 保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

## 保証期間が過ぎているとき

修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

## 修理料金の仕組み

- 技術料 故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
- 部品代 修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
- 出張料 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

## 補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年(テープデッキは6年)です。この期間は通商産業省の指導によるものです。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

## 持ち込み修理のお願い

故障の場合、お買上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

## 製品の状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。

品番、製造番号は本機背面パネルに表示してあります。

## 摩耗部品の交換について

本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをお勧めします。摩耗部品の交換は必ずお買上げ店、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

### 摩耗部品の一例

ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

ヤマハAV製品に対するお問合せ窓口  
AVお客様ご相談センター  
TEL (03) 5488 - 5500

## ヤマハ電気音響製品サービス拠点

(ヤマハAV製品の故障に関するご相談窓口および修理受付、修理品お持ち込み窓口)

- 北海道 〒064 札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内  
TEL (011) 512 - 6108
- 仙台 〒983 仙台市若林区卸町5-7  
仙台卸商共同配送センター3F  
TEL (022) 236 - 0249
- 首都圏 〒211 川崎市中原区木月1184  
TEL (044) 434 - 3100
- 東京 (お持ち込み修理のみ取扱い)  
〒108 東京都港区高輪2-17-11  
TEL (03) 5488 - 6625
- 浜松 〒435 浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内  
TEL (053) 465 - 6711
- 名古屋 〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2  
ヤマハ(株)名古屋流通センター3F  
TEL (052) 652 - 2230
- 大阪 〒565 吹田市新芦屋下1-16  
ヤマハ(株)千里丘センター内  
TEL (06) 877 - 5262
- 広島 〒731-01 広島市安佐南区西原6-14-14  
TEL (082) 874 - 3787
- 四国 〒760 高松市丸亀町8-7 ヤマハミュージック高松店内  
TEL (0878) 22 - 3045
- 九州 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4  
TEL (092) 472 - 2134

愛情点検



永年ご使用の本機の点検を！

こんな症状はありませんか？

電源コード・プラグが異常に熱い。  
コゲくさい臭いがする。  
電源コードに深いキズが変形がある。  
製品に触れるとビリビリと電気を感じる。  
電源を入れても正常に作動しない。  
その他の異常・故障がある。



すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。  
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

## ヤマハ株式会社

〒430 浜松市中沢町10-1

AV機器事業部

営業部 TEL (053) 460 - 3451

品質保証室 TEL (053) 460 - 3405

住所および電話番号は変更になることがあります。

# YAMAHA